



社会福祉法人 恩賜財団 済生会和歌山病院

〒640-8158 和歌山市十二番丁45番地

TEL. 073-424-5185

FAX. 073-425-6485

ホームページ: <http://www.saiseikai-wakayama.jp/>



済生会

わかやま

NEWS

第33号

発行日: 2016.9



～ 理念 ～

私たちは、地域社会に親しまれ、信頼され、患者さんも職員も元気が出る病院をめざします。

～ 基本方針 ～

1. 急性期医療を基本に機能と特性を明確にする。
2. 患者さんの立場に立って、安全で質の高い医療を効率的に提供する。
3. 透明性、公共性を保ち、地域社会と連携を密にし、地域から求められる病院にする。

患者さんの権利と責務

1. 平等に良質で適切な医療を受ける権利があります。
2. 医療に際して十分な説明を受ける権利があります。
3. 検査・治療等に際してそれを受ける事を自己の判断のもと承諾あるいは、拒否する権利があります。
4. 医療のどの段階においても他の医師や医療機関の意見を求める権利があります。
5. 自己の病状について情報を得る権利があります。
6. 自己の病状について個人的情報の秘密を守られる権利があります。
7. 医療に関する苦情を申し立てる権利があります。
8. 良質な医療を実現するために、自己の健康状態に関する情報を正確に伝える責務があります。
9. 治療費を支払う責務があります。
10. 良好な療養生活を守るために、定められた諸規則を守る責務があります。
11. 医師・看護師や病院職員の指示に従う責務があります。

— Information —

済生会和歌山病院 副院長 英 肇



いつもご指導いただきありがとうございます。

私は、昭和57年に医大を卒業後、第一内科、国保日高総合病院などに勤務させていただいた後、平成25年4月、江川部長の後任として当院に赴任させていただきました。以後糖尿病中心に診療に当たらせていただいています。おかげさまで、当科は外来患者数も増加傾向となり、整形外科、外科、最近では特に心臓血管外科より、多数の院内紹介を頂き、共観血糖コントロールさせていただいています。いつも多数の患者様をご紹介いただいている登録医の先生方、ご開業の先生方には、改めてお礼を申し上げます。

さて、本年5月1日より、副院長を拝命いたしました。今までは仲副院長がお一人で副院長の激務を果たされていましたが、内科系副院長として、微力ですがお助けできればと考えています。以前、当地に和歌山医大があったころとは、済生会和歌山病院の周囲環境も激変しています。外来患者層は、近隣にお勤めの少数の方を除けば、主に、ご高齢の方であり、周辺人口の減少とともに、外来患者数の減少は避けられません。しかし、医大、日赤などの大病院の外来抑制の流れから、何らかの道が見出せると考えています。入院に関しては、高度急性期医療と一般かかりつけ医療の間をうめるような、小回りの利く当院の特色をだした医療ができればと考えます。また、当病院には立派で元気な若い力が、たくさん育っています。私自身は非力ですが、これらの若い方々の力を十分発揮できるような環境作りに少しでも役立てばと考えています。

甚だ未熟で、薄学非才ではありますが、改めてご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

～ Topics ～ 外来化学療法について

外科部長 重里 政信



当院で扱っている多種のがんに関して、肺がん・乳がんは主として外科で、肝臓がん・胆道がん・膵臓がんは消化器内科で、食道がん・胃がん、大腸がんは外科と消化器内科の両診療科で外来化学療法（抗がん剤治療）を行っています。

化学療法は有益な効果と恐ろしい副作用が表裏一体となった薬物治療で、がん患者さんの状態の把握やがん患者さんへの丁寧な説明は欠かせません。しかしながら、医師の外来は1日で数十人におよび、ひとりひとりのがん患者さんに割ける時間は限られています。

そこで当院では、すべての種類の化学療法の知識を持った専門薬剤師が、外来でがん患者さんへの観察と説明を十分に行い、担当医と協同して治療にあたっています。

薬剤師による化学療法外来によって、化学療法がより安全で、有効な治療になってきたように思います。

薬剤部主任 岡本 克文



日本人の2人に1人が、一生涯のうちに体験する病気。それが、“がん”です。日本のだれもが、どこに住んでいても、適切ながん医療を受けられるように、均てん化が求められている中、治療手段の一つである化学療法も患者QOLの向上を目指し、日々、複雑化してきています。

当院では、平成18年から重里政信外科部長の指揮のもと、外来化学療法チームが立ち上がり、安全で有効な化学療法を受けて頂けるように、担当医とともに、がん患者さんの治療にあたっています。平成25年3月に独立行政法人国立がん研究センター相談支援センター相談員研修を修了し、平成27年10月には、一般社団法人日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師の資格取得を期に、医師診察前に介入を行う薬剤師外来（化学療法外来）を開設し、がん患者さん、ひとりひとりに寄り添った化学療法の提供を行えるように努めています。

今後、当院のがん患者さん以外にも「あの病院の薬剤師さんに話を聞いて貰いたい」と言われるよう、一層取り組んで行きたいと思えます。

～ 登録医総会開催について ～

地域医療連携室室長 重里 政信



松崎院長による開会の挨拶

7月16日（土）和歌山ロイネットホテルにて、第8回済生会和歌山病院登録医総会を開催いたしました。

今年の特別講演は、当院松崎交作院長による“骨折の治療”についてお話をさせていただきました。

骨折にも様々な骨折があり、初診時と術後のレントゲン写真の比較は、非常に興味深く、又、たくさんのスライドを用いて事例紹介をしていただき、登録医の先生方からも大好評でした。

今後も、先生方の日々の診療に役立てていただけるような講演ができればと考えておりますので、よろしくお願いたします。



情報交換会の様子

～ 赴任のお知らせ ～



整形外科
太地 良 医師

7月から赴任しました整形外科の太地 良(たいぢりょう)と申します。骨折や変性疾患などを中心に、幅広い整形外科疾患の診療にあたらせていただきます。

至らぬ点多々ありますが、和歌山の医療に貢献できるよう日々精進して参りますので、何卒よろしくお願いたします。



～ 熊本地震医療支援活動を行って ～

救急看護認定看護師 星田 龍也

平成28年4月に発生した熊本地域の地震災害に対して、済生会熊本病院へ診療救護班として当院から医療チームを派遣することとなりました。活動日は平成28年5月23日～5月25日の3日間で、医師1名・看護師2名のチームを編成しました。活動日は地震発生から約一ヶ月経過した慢性期であり、幹線道路や鉄道・空港は復旧していましたが、崩壊した家屋や店舗は放置されたままの状態でした。

瓦葺古民家¹⁾や一階が駐車場等の空スペースで2階が住居タイプ²⁾の家屋の被害が多く、地震のエネルギーは私たちの想像をはるかに超えていました。また地震の揺れにより、主幹道路や高速道路では波打つように変形し自動車に乗っていても揺れが激しかったです。

済生会和歌山救護班は、済生会熊本病院の救急外来を支援することとなりました。発生一か月後には救急搬入される患者数は平時に戻りつつありましたが、余震による恐怖や不安、衣食住が不安定な生活が継続することによる慢性的なストレス状態があり、これらが起因と考えられる疾病の救急搬送が多くみられました。

私たち3名の活動は全体を通じては極小さなことかもしれませんが、現地のスタッフの心身が少しでも回復できた旨を先方の方から声をお掛けして頂きました。実際に現地の施設で活動することで、熊本地域における済生会熊本病院の役割・責任感や被災者受け入れ体制、管理など様々な事を直接肌を感じる事ができ、机上ではなく実際の問題点や課題をご教授していただく事ができました。

今回、看護師として質の高い豊富で貴重な経験をさせていただきました。これらの経験をもとに、当院も災害支援病院としての役割を果たすべく、防災意識の向上や、備え・訓練等を充実していきたいと考えています。

和歌山県は今後南海トラフ地震が発生すると予測されています。私たち、済生会和歌山病院は日頃から地域住民や登録医との連携を高めることで一つの組織ではなく地域や各医療機関がチームとして活動することで多くの問題に立ち向かうことができると考えています。



出陣式の様子



図1)



図2)

済生会和歌山病院外来診療予定表

(平成28年7月1日現在)

区分		月	火	水	木	金
内科	消化器内科	山原 邦浩	—	山原 邦浩	河野 尚宏	川口 雅功
		河野 尚宏	—	川口 雅功	—	—
	糖尿病代謝内科	—	玉川 えり	—	巽 邦浩	—
		巽 邦浩	英 肇	荒古 道子	英 肇	荒古 道子
循環器内科	—	—	—	—	—	
	尾鼻 正弘	大鹿 裕之	尾鼻 正弘	大鹿 裕之	和田 輝明	
脳神経外科	北山 真理	北山 真理	仲 寛	仲 寛	▲林 靖二山家弘雄	
	三木潤一郎	—	廣緒 洋子	三木潤一郎	—	
外科	—	高垣 有作	—	—	—	
	重里 政信	房本 安矢	重里 政信	—	中村 恭子	
	—	—	ストーマ外来	—	—	
心臓血管外科	畑田 充俊	—	栗山 雄幸	栗山 雄幸	畑田 充俊	
整形外科	太地 良	中村 憲太	新患診	松崎 交作	岡田 紗枝	
	岡田 紗枝	山崎 悟		山崎 悟	中村 憲太	
	西山 大介	—		西山 大介	—	
リハビリテーション科	湯田 啓之	湯田 啓之	医大応援医師	湯田 啓之	湯田 啓之	
耳鼻咽喉科	—	—	医大応援医師	—	—	
腎センター	—	—	—	岡本 昌典	—	
眼科	医大応援医師	医大応援医師	—	医大応援医師	白井 久美	
皮膚科	上中 智香子	—	—	山本 有紀	—	
泌尿器科	—	—	岩橋 悠矢	—	柑本 康夫	

※外科、高垣有作はリンパ浮腫外来となります。

【受付時間】 午前（全科） 8時30分～11時00分（但し、予約患者は除く）

- ※腎センターは木曜日午後 保存期外来を実施。
- ※月曜日午後1時から予約制で禁煙外来を行っています。
- ※水曜日はストーマ外来を実施しています。
(予約制・初診の方は紹介状が必要です)

- ▲金曜日の脳神経外科は毎月第2週目のみ山家先生に診察医が変わります。
- ※当院では予約診療を行っているため、予約無しで来院された場合は、紹介状を持参されていてもお待ち頂く場合がございますのでご了承ください。
ご紹介の際は患者さんの待ち時間短縮の為に、ご予約をお取り下さいます様お願いいたします。



診療案内

診察日：月～金曜日
 受付時間：午前8時30分～午前11時(但し、予約患者はこの限りにあらず)
 休診日：土・日・祝祭日(年末年始)
 面会時間：月～金曜日 午後2時～午後7時 土・日・祝祭日 午前10時～午後7時



交通案内

- JR和歌山駅から和歌山バス約10分「京橋」下車、徒歩すぐ
- 南海和歌山市駅から和歌山バス約5分「京橋」下車、徒歩すぐ

地域医療連携室

TEL (073) 424-5186 FAX (073) 424-5187